

# 西市民病院だより

〒653-0013 神戸市長田区一番町2-4 | Tel| 576-5251(代) | Fax| 579-1920 地域医療在宅支援室

## 脳神経疾患センターについて



脳神経内科医長  
脳神経外科部長



菅 生 教 文  
足 立 秀 光

### ★脳神経疾患センターとは

近年、日本の人口の高齢化が進み、当地域でも顕著となるなか、神戸市では脳血管障害の患者数が上昇しています。その他、注目されているのは認知症、てんかん、神経変性疾患など高齢化による影響が見込まれる疾患です。

当院では、2019年から脳神経外科を再開しました。神戸市立医療センター中央市民病院から足立医師を招聘し脳神経内科とともに脳神経疾患センターとして脳神経疾患に対応しております。

脳卒中診療については、脳神経外科が加わったことでさらに強固な体制を整えることが出来ました。また神戸市立医療センター中央市民病院脳神経センターとの連携がさらにスムーズになり、血管内治療やt-PA症例などの高度な治療も転送し、より素早く対応ができています。

当院は、日本神経学会準教育施設に認定されています。また、新たに創設されました日本脳卒中学会の認定する1次脳卒中センター（PSC）にも指定されていますが、脳神経外科が加わったことでこの度日本脳卒中学会教育施設にも認定されました。地域の要望とそれに応える体制を整え、地域格差のない脳卒中診療ができるよう心がけています。

### ★脳神経内科の役割とは

脳神経内科の分野では神経救急疾患の対応という役割と神経変性疾患の診療や神経疾患の二次予防という役割を担っています。

神経救急疾患では主に、脳血管障害として脳梗塞、脳出血、くも膜下出血があげられますが、それ以外にもギラン・バレー症候群、髄膜炎、脳炎、多発性硬化症、視神経脊髄炎、症候性てんかん、重症筋無力症など急性期対応が必要な疾患を診療しています。

外来を中心に神経変性疾患を診ていますが、時にレスパイトや脱水、感染など合併したときの入院治療もしています。高齢化社会という背景で、高齢発症のおおい疾患としてパーキンソン病、パーキンソン症候群やその他、頸部ジストニア、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、CADASIL、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症など診療しています。複雑で難解な症例については神戸市立医療センター中央市民病院脳神経内科とも連携して精査しております。



脳神経疾患センター  
キャラクター  
のうこちゃん

## ★脳神経外科の役割とは

当院の脳神経外科では、神経救急疾患の対応と脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷といった一般的な脳神経外科診療を積極的に行い、外科治療、脳血管障害の予防治療という役割も担っています。

当科の特色は、当院が積極的に救急医療を行っているため、救急経由で急性期治療を必要としている脳卒中、頭部外傷の診療が多くを占めています。さらに、総合病院として内科系、外科系とも専門が充実しているため、脳血管障害の2次予防や転移性脳腫瘍の診療も増加しています。院内では、脳神経内科と緊密に連携をはかり、脳神経内科、脳神経外科が協力し、脳神経疾患センターとして脳神経疾患全体の診療にあたっています。特に、脳卒中診療については、1人の入院患者さんに脳神経外科、脳神経内科の壁なく主治医、担当医として両科で診療を担当することで、良質な医療を提供できるよう体制を整えています。

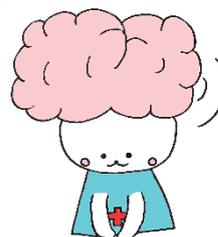
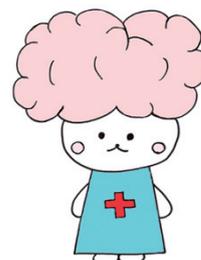
現在当科では外科治療を行っていないため、神戸市立医療センター中央市民病院脳神経センターとの連携によって全ての外科治療をカバーしています。救急疾患はもちろん、慢性疾患についても早急に手術適応を判断し、迅速に神戸市立医療センター中央市民病院脳神経センターへ紹介することで、患者さんへ外科治療を行っています。

2020年1-12月実績で当院脳神経疾患センターから他院へ救急転送39例中36例（脳血管障害19例、外傷12例、感染4例、腫瘍1例）を神戸市立医療センター中央市民病院脳神経センターへ転送、うち7例は当院で他科入院中の院内発症脳卒中でした。病院内の各部署と連携を図ることで、外科治療の適応となる患者さんをいち早く診断し、ただちに治療できるよう心がけています。当院で脳神経外科治療を開始するまで、神戸市立医療センター中央市民病院脳神経センターとの連携で外科治療をカバーしていきたいと考えています。

## ★今後の脳神経疾患センターについて

これからの当院の役割として西市民病院（市街地西部の中核病院）のあり方検討に係わる有識者会議で提言されたように、救急医療の重点項目として「重症化の恐れがある心血管、脳血管疾患への対応強化により標準的な診療体制を構築し、地域医療機関との連携のもと、中等症救急搬送を市街地西部内で完結させる」ことが目標とされています。

この目標のもと、脳神経疾患センターは地域医療にしっかりと貢献できるよう邁進し、地域の皆様に安心して受診ができ、隙間のない診療ができるように心がけております。これからも当院の脳神経疾患センターをよろしく願います。



## 認知症疾患医療部について

認知症疾患医療部長 木原 武士



「認知症」は、2020年改正された介護保険法で「アルツハイマー病その他の神経変性疾患、脳血管疾患その他の疾患により日常生活に支障が生じる程度にまで認知機能が低下した状態として政令で定める状態をいう」とされています。神経細胞・神経回路の障害が起こると、障害部位によってDSM-5に挙げられる「複雑性注意」「遂行機能」「学習および記憶」「言語」「知覚-運動」「社会的認知」といった「認知機能」が色々な組み合わせで低下します。これにより例えば電話をかける、買い物をする、食事を準備する、家事を行う、洗濯をする、運転する、公共交通機関を利用する、薬の管理をする、お金の管理をするといった手段的日常生活動作（IADL）が難しくなります。さらには基本的日常動作（BADL）と呼ばれる起居動作・移乗・移動・食事・更衣・

排泄・入浴・整容といったことも難しくなります。以前に比べて認知機能低下が低下したことで社会生活に支障が出て、他者の援助が必要な状況だと、「認知症の状態」です。

認知症を来す脳の疾患は様々です。アルツハイマー病は脳内にアミロイドやタウといったタンパクが蓄積し、神経細胞が減少する疾患です。近時記憶障害、エピソード記憶の低下が有名ですが、手続き記憶（身体で覚えた記憶）や意味記憶（長く保存された知識の記憶）は保たれていることが多いです。レビー小体病では $\alpha$ シヌクレインなどが脳内に蓄積します。レビー小体型認知症の場合は意識レベル等が変動しますが、状態の良いときには問題なく過ごせる方もあります。前頭側頭葉変性症では蓄積するタンパクが数種報告されています。これによる行動障害型の認知症（bvFTD）の場合でも記憶障害は目立たず、御本人が興味を示すことであれば常同行動を生かして継続出来るかもしれません。認知症の状態であってもできることは多いのです。80歳代に入って初めて認知機能低下を生じた場合、アミロイド病理を示さない高齢者タウオパチー（神経原線維変化老年期認知症や嗜銀顆粒性認知症など）の可能性があります。ただしアミロイドやタウのPET検査等で鑑別する技術は進歩していますが、保険適応外です。

当科では、生活障害のある認知症なのか判断するとともに、その原因となる脳疾患の診断を行なっています。症状の経過や以前とどう違うのかといった情報が重要です。そのため普段の様子をご存知の方（ご家族様）との受診をお願いしています。検査としては、脳CT画像、MRI画像、MMSEを中心とした心理テスト、血液検査を行っています。RI検査は他院に依頼しています。前述の各脳疾患いずれも確定診断は病理診断ですが、診断の確からしさをあげるために検査を行い、推測される疾患に合わせた対応を考えていきます。

しかし理想は生活障害が出る前の対策です。またアルツハイマー病については、高齢者タウオパチーの比率が高い80歳代発症より前に発見することが望ましいです。昨今コロナ禍で受診を見合わせているケースもあるかもしれませんが、例えば前日の食事内容、最近のニュース、前回の診療内容を覚えていない、処方が残っているはずなのになくなったと受診された、などの場合に受診を勧めてください。

また、軽度認知障害や軽度アルツハイマー型認知症の方を対象とした臨床試験を実施しております。MMSE20-26点程度でご本人ご家族様の協力いただける方をご紹介いただけますと幸いです。

生活習慣病のコントロールは認知症リスクを下げますが、これにはかかりつけ医の先生方のお力が必要です。ご協力いただきながら認知症になりにくい地域、認知症となっても困らない地域づくりを考えていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

## 認知症疾患医療センターについて

神戸市認知症疾患医療センター センター長補佐 岩 落 かをり

当院では平成30年10月に神戸市から指定を受け、認知症疾患医療センターを開設致しました。

認知症疾患医療センターは、地域において認知症に対して進行予防から地域生活の維持まで必要な医療を提供できる機能・体制の構築を図ることを目的に設置しています。認知症の早期診断、早期治療、身体合併症や行動・心理症状の治療、地域連携の推進、人材育成や普及啓発を行っております。主な業務内容はご存じの方も多いとは思いますが、主なものを紹介します。

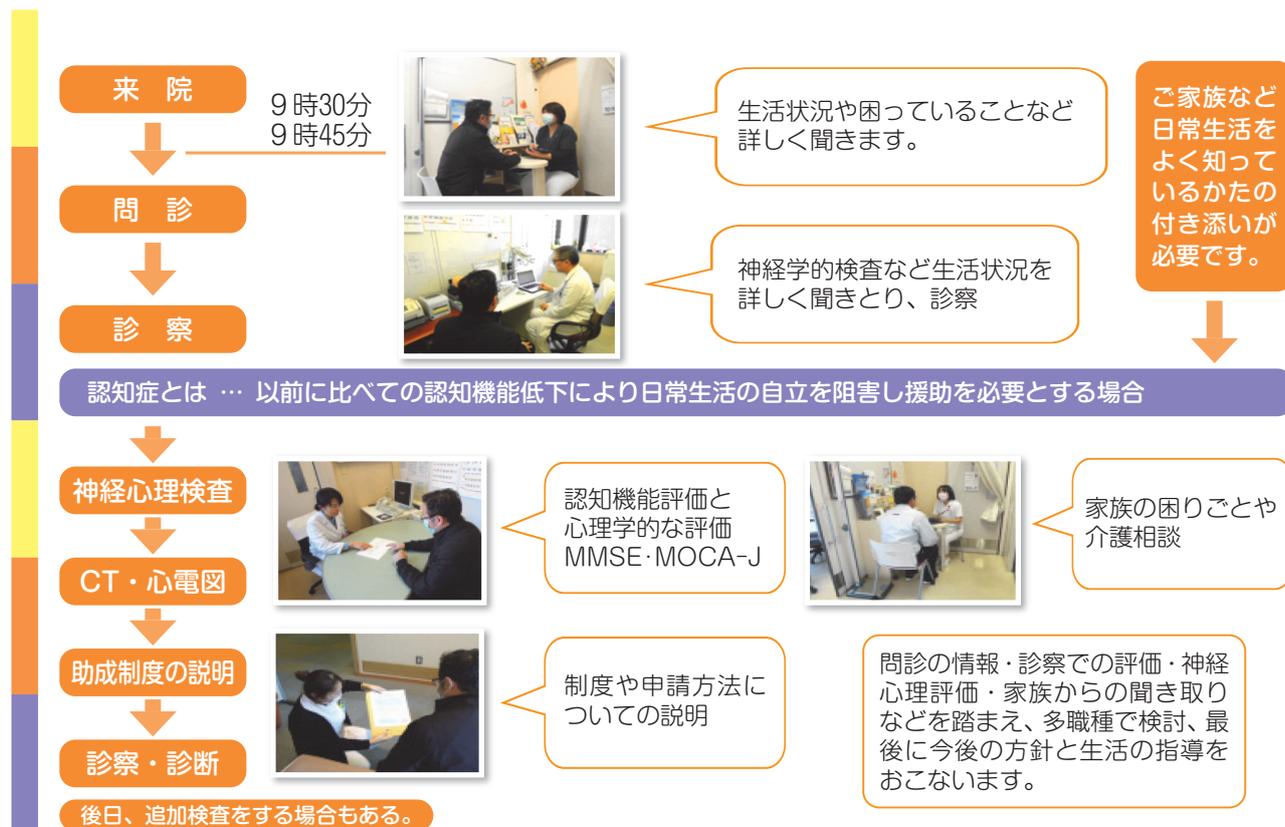
### 診断と初期対応

日常生活の様子や、生活上の困りごとなど身体状態の聞き取りと各種の検査（神経学的検査・神経心理検査・画像検査・心電図検査・血液検査など）を行います。その結果をもとに、専門医師が評価・診断をおこないます。その診断に基づき、治療・生活・介護についてご本人やご家族と一緒に考えます。

紹介して頂いた、かかりつけ医の先生や必要に応じてケアマネジャーの方と情報を交換します。

診断後は家族勉強会や認知症の進行予防を目指し、音楽療法の会なども開催しています。（現在は COVID-19の感染拡大のために休止中）

認知症精密検査の流れを紹介します。来院から3時間程度時間を要するので、当日は余裕をもって来院してください。受診前の生活状況をお聞きし、診断後は今後についても相談させて頂くことになります。ご本人のことをよくご存じのご家族などと一緒に来て頂くことをお願いしています。



### 専門医療相談（電話・面談）

専門の職員（看護師・保健師・精神保健福祉士・公認心理師など）が認知症に関する相談を受けます。受診の有無にかかわらず、相談を受けておりますので、気軽にご相談ください。相談は無料です。面談での相談を希望される場合は電話で予約が必要です。

### 研修会の開催・啓発

医療・介護従事者の皆さんに向けた研修会や事例検討会や、認知症予防などの市民の皆さん向けの講座をおこなっています。

2か月に1回地域の医療介護従事者の皆さんと事例検討会を開催しております。今年度は感染状況をみながらの開催になっております、直近では、7月14日に開催しました。

自宅に引きこもりがちになられ認知症状の悪化が心配される、給食会など地域のイベントも休みになることで居場所がなくなった、妄想など症状の影響もありサービスを拒否されている事例などを検討しました。



### 受診方法

当院では神戸モデルの第2段階の認知機能精密検査をおこなっています。第1段階の検査結果が診療情報提供書をFAXください。第2段階の予約はご家族からの電話でも取れますが、FAX予約をおすすめしております。現在、診察は1週間程度の短い待機期間で受診して頂けますので、お気軽にご利用ください。

平成30年に神戸市認知症の人にやさしいまちづくり条例が策定されました。社会全体で認知症の人を支える取り組みが望まれています。医療機関として貢献できることを皆さんと相談をしながら進めていきたいと考えています。

診断をおこなう時は、何に困っておられるか、以前に比べて何ができなくなっているのかなどの受診の前の生活状況を詳しくお聞きし、診断や相談の役に立てます。

当院での入院治療を受けて頂く患者さんにも、BPSDの悪化やせん妄などをおこすことなく、身体の治療をおこない、地域生活を長く送ることができるように、サポートをしていきたいと考えています。その為には患者さんがどのように生活をされていたかをお聞きし、入院での変化を少なく環境調整をおこなうことが大事になってきます。

医療介護従事者の皆さんと情報の共有をし、個別性を重視し、住み慣れた地域で長く生活する為に患者様にとってよりよい環境を作っていくことができればと思います。

認知症疾患医療センター専用電話

078-579-1966

受付時間：9時～17時

(土日祝日、年末年始を除く)

## 令和3年度「市内訪問看護ステーションとの交流会（6/17）」 「ケアマネジャー・あんしんすこやかセンター・医療介護サポートセンター等との交流会（7/15）」 開催のご報告

本年度は「コロナ禍での退院前カンファレンスについて考える」をテーマに、院外の皆様にはwebでご参加いただき、対面での情報交換ができない状況での地域の皆様の取り組みや、webを活用したカンファレンスの在り方などの意見交換ができました。web環境の整備や操作に慣れるなどの課題がありながらも、患者さんが安心して地域で療養できるために顔の見える関係性を作ることの大切さを改めて共有できました。当院では、対面での退院カンファレンスはもちろん、オンラインでの退院前カンファレンスも積極的に行っております。地域の先生方には、ご都合の良い方法でぜひご参加いただければ幸いです。



参加者

6/17 計29名(院外13名、院内16名)

7/15 計27名(院外14名、院内13名)

## 西市民栄養カンファレンス（オンライン）のご案内

介護サービスについて（種類や内容、要支援・要介護での選択肢など）

\* 栄養に関する内容を織り交ぜながらの講演です

**日時** 令和3年8月31日（火）18：00～19：00

**場所** オンライン開催（ZOOM）

**申込方法** [w\\_kouza@kcho.jp](mailto:w_kouza@kcho.jp) へ以下の内容を送信下さい

- ① 件名「西市民栄養カンファレンス」
- ② 本文「氏名」、「施設名」、「職種」、「返信用メールアドレス」

**締切日** 8月27日（金）



医師の転出の  
お知らせ

【転出等 7月31日付】

所	属	補	職	氏名	所	属	補	職	氏名
呼吸器内科		医	員	和田 学政	呼吸器内科		専	攻	山崎 菜々美

Table with columns for Department (診療科/診療室), Date (月), Time (午前/午後), and Doctor (富岡, 網本, 岩林, etc.). Includes sub-sections for Internal Medicine (内科), Pediatrics (小児科), Surgery (外科), etc.